



南三陸消防署 地震津波安全対策担当
及川淳之助さん

大地震に備える

近い将来、高い確率で「宮城県沖地震」が起きると予想されています。いざというときに、素早く行動できるよう、被災時の対処方法などについて、南三陸消防署の及川淳之助さんに話を聞きました。

揺れがおさまったときは
もう一度火の元をチェックしてください。また、水道が止まることも考えられますので、お風呂やバケツなどに、なるべく多くの水を確保してください。テレビやラジオなどで情報を収集することも大切です。今、どのような状況なのかを把握し、落ち着いて行政等の指示に従ってください。

避難するときは
必要なものはリュックサックなどにに入れて、両手が自由に使える状態で歩いて避難してください。

大きな揺れを感じたときは
まずは、落下物や家具などから身を守るために、テーブルやこたつの下に隠れてください。大きい揺れの場合、窓や扉が変形して開かなくなることもありますので、時間的な余裕があるときは、窓を開けるなど、逃げ道を確認することも大事です。また、慌てて火の始末をして、火傷をする事例もありますので、落ち着いて行動してください。

なお、外にいるときに大きな揺れがきた場合は、ブロック塀の倒壊や割れたガラスの落下などが心配されますので、そういったものの近くから離れるようにしてください。車を運転している場合は、道路の脇に止めてエンジンを停止してください。

子どもやお年寄りは
災害が大きくなればなるほど、行政の力が分散し、個人に対する対応力は小さくなります。ひとりで避難することが難しい子どもや高齢者の方はどうすればよいのでしょうか。そんなときこそ、ご近所や顔見知りの方の力が重要となります。常日ごろから、災害時の行動を地域で話し合い、特に、隣近所とのコミュニケーションを密にしていくことが大切です。

日ごろの準備は
地震は突然襲ってきます。家具の固定や家の耐震化など、日ごろの備えが重要です。また、いざというときに慌てることのないよう「どこに逃げるのか」「誰と逃げるのか」「何を持っていくのか」家族で話し合っておきましょう。非常用に持ち出しするものは、たくさんありますが、特に必要なものとして、①現金などの貴重品、②ラジオや懐中電灯、③非常用の食料や飲料水などは、いつでも持ち出せるように準備しておくことが大切です。

2月の大津波警報のときは
3メートルの津波が来ると聞いて

意思を受け継ぐ
防災教育は



歌津中学校3年
高橋昂聖さん (㊟管の浜)

災害に備え、町内の小中学校でも防災教育に対する意識付けが高まっています。実際に津波を体験したことのない子どもたちは、地震や津波に対してどんな考えをもっているのでしょうか？歌津中学校生徒会長の高橋昂聖さんに話を聞きました。

もし津波が来たら
命あつての人生なので、「地震が来たら机の下に隠れる」「津波が来たら急いで高台に避難する」など、しっかりと自分の命を守るようにしたいと思っています。この間の大津波警報のときは焦ってしまつたので、いざというときに落ち着いた行動がとれるように、日ごろから防災に対する心構えをもつて生活したいと思っています。

家庭での地震・津波対策
家では防災セットが準備してあり、いつでも持ち出せるようになっています。また、家具も倒れないように固定してあります。「備えあれば憂いなし」なので、皆さんの家でも、今できることをやってほしいと思います。



佐藤清太郎さん (㊟十日町)

当時を語る

50年前のチリ地震津波では、志津川地区が大きな被害を受け、市街地は壊滅状態となりました。チリ地震津波の体験者であり、実際に自宅が津波による被害を受けた佐藤清太郎さんに、当時の状況を振り返っていただきました。

大きなツメ跡
津波が去ったあとは、悲惨な光景でした。これまでの町並みは見るも無惨な姿となり、家屋の倒壊はもろろんですが、津波が持ってきた泥や材木の撤収作業を休む暇しかなかったんです。

自分の目を疑った
あれは、私が高校3年生のときで、ちょうど中間テストの最終日でした。当時は、「地震があったら津波に注意」というのが、津波に対する一般的な心構えでした。「津波が来るかもしれない」という話を聞いたときは、地震を感じたわけではないので、興味本位で旧志津川魚市場まで海を見に行きました。そして、そこで見たものは、自分の目を疑うものでした。荒島の向こう側まで、湾内の水がまったく無くなつていたので、「これが現実なのか？」一瞬にして恐怖心が身を包みました。**轟音とともに津波が押し寄せた**



清太郎さんの親戚が撮影した津波後に泥などの撤収作業をしている佐藤家の様子。スコップを持っているのが当時の清太郎さんです。

現状を考えると
現在は、水陸門などの防災施設の整備が進み、防災に対する皆さんの意識も強くなってきたと思います。ただ、心配なのが、当時と比べて圧倒的に高齢者世帯が増えたということです。今後予想される宮城県沖地震は直下型ですから、地震が起きてから20分ほどで津波が来るのではないかと思います。自分を守り家族を守るのが第一ですから、時間的な余裕がない中で、いかに地域の高齢者の皆さんを守っていくのが、これからの課題だと考えます。

津波防災シンポジウム
「チリ地震津波から50年、そして今年」
地震や津波などの災害に備え、地域の防災活動の活性化が求められています。被災時の人的被害を少しでもなくすよう、地域防災力の強化に向けたシンポジウムを開催します。ぜひご来場ください。

- ◇日時 5月23日(日) 午後1時～3時30分
- ◇場所 ベイサイドアリーナ「文化交流ホール」
- ◇主催 宮城県、南三陸町、宮城県津波対策連絡協議会
- ◇内容 ①基調講演「チリ地震津波の被災状況と津波に対する備え」
講師：東北大学大学院工学研究科 今村文彦教授
②パネルディスカッション
テーマ「いざというとき、どう行動しますか」
パネラー：管区気象台職員、チリ地震津波体験者、ほか
③提言採択
④震災パネル展、非常食試食、防災機器展示体験コーナー
- ◇問い合わせ 危機管理課 ☎46-1376

50年経って思うこと
チリ地震津波から50年が経過し、災害の状況などは記録として残されていますが、実際に体験した人たちは、だんだん減っていきまふ。私たち体験者は、あのと見た光景や状況などを体験したことのない人たちに伝えていくことが使命であると思います。そして、学校や職場などでも、普段からの防災に対する意識付けを強くしていただきたいと思います。

